



第23回全国障害者芸術・文化祭サテライト開催事業「清流の国ぎふ」文化祭2024プレイベント

# いのちがはたかたの展覧会

虫が、<sup>は</sup>食む。

2023.11.3 [金・祝] - 7 [火] ぎふ清流文化プラザ

作 // 篠田 慎

## はじめに

「いろんなみんなの展覧会」は、岐阜県内で活動している障がいのある作家の多彩な作品展を中心に、様々な企画を盛り込んで構成したアートフェスティバルとして、今回で7回目の開催となりました。

展覧会の開催に際しまして、作家、関係機関、企業、福祉施設、アートサポーター等多くの皆様方に、多大なるご支援・ご協力頂き、心より感謝申し上げます。

今回の展覧会は、過去6回までの継続性を考慮のうえ、テーマを「虫が、食む。」とし『色々な視点から作品を鑑賞する、違った角度や多様な視点から見ると、気づかなかった世界や自分に会えるかもしれない。』というメッセージを発信しました。

ぎふ清流文化プラザ・長良川ホールをメイン会場に、11月3日から7日までの5日間の会期中で、1,000人を超える多くの来場者にお越し頂きました。リピーターだけではなく初めての参加者も多く、障がいのある人の芸術文化活動に広く関心を持って頂けたと思います。

企画展「プリズム」では、エネルギーで活動的な9名の作家の絵画や立体作品を、制作風景の動画も合わせて展示するとともに、様々な分野の9名(組)の方から事前に頂いたそれぞれの作品の魅力についてのコメントを掲載したパネルを設置しました。また、作家本人の協力を得て、同じ技法で制作を追体験できるコーナーを確保し、多くの観覧者に参加頂きました。

また今回は新たな試みとして、室内を飛び出し2階庭園の活用を図り、テーマの「虫が、食む。」に沿って昆虫のオブジェを展示するとともに、誰もが参加できるようにクモの巣作りワークショップや虫探しのゲームを企画し、参加者に楽しんで頂きました。

また、手作りの衣装を使ったファッションショーや、仮設のラジオスタジオでのトークショーなどのイベントを開催し、展覧会の雰囲気盛り上げることが出来ました。

令和6年度の第8回いろんなみんなの展覧会は、「清流の国ぎふ」文化祭2024の地域文化発信事業「一般プログラム」に位置付けられ、注目度も高いことから、岐阜県障がい者芸術文化支援センター[TASCぎふ]としては今回の成果と反省を踏まえ、より一層創意工夫した魅力的なアートフェスティバルになるよう準備を進めますので、ご支援・ご協力の程どうぞよろしくお願い申し上げます。

公益財団法人 岐阜県教育文化財団  
理事兼障がい者芸術文化支援センター長  
田中 誠司

## 目次 Contents

### P.03 企画展 プリズム

- P.04 佐藤 守道 Satou Morimichi
- P.06 HとI H to I
- P.08 K→UNI Kuni
- P.10 近江 真司 Oumi Shinji
- P.12 MAKOTO Makoto
- P.14 前田 清之 Maeda Kiyoyuki
- P.16 篠田 慎 Shinoda Shin
- P.18 篠田 友司 Shinoda Yuuji
- P.20 小林 育夫 Kobayashi Ikuo

### P.22 いろんなイベント

- P.22 魅力発見「ここが面白い!」 / 追体験ワークショップ  
黙々鑑賞会 / 視覚障がい者の○○さんとめぐる鑑賞会
- P.23 謎解きゲーム / ガイドツアー / いしかわ百万石文化祭2023
- P.24 まじわるラジオ / 15時からのTASC-1ステージ
- P.25 アートマルシェ / ストリートピアノ / 画材バンク譲渡会  
tomoniあたらしいものづくり[Make with 2023]  
株式会社十六フィナンシャルグループ [つなぐアート展]  
OKB 大垣共立銀行 [tomoiアートプロジェクト]
- P.26 「虫が、食む。」公募作品展  
わたしのファッションショー ピックアップ展  
わたしのファッションショー
- P.28 感じるワークショップ「クモの巣をつくろう!」
- P.29 感じるワークショップ「虫を探そう!」



虫が食んだ葉っぱの穴から、空が見える。  
虫の視点、木や葉っぱの視点、  
土や他の生物からの視点。  
色々な視点から捉えると、  
気付かなかった世界が見えてくる。  
透明な多面体が光を屈折させるプリズムのように  
視点の角度を変えてみよう。

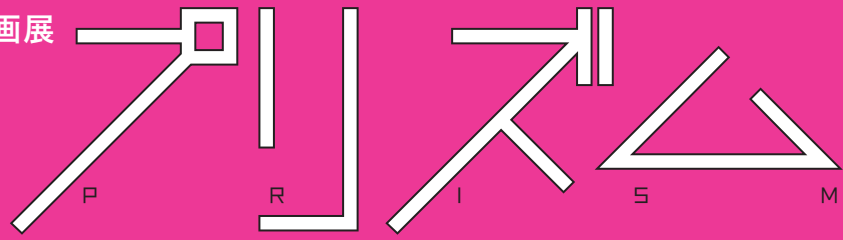
何らかの目的のためでなく、人に見せることを前提とせず、作品のようなものを制作している人がいます。人にプレゼントするために生まれたものがあります。もちろん、作品として、人に見てもらおうことを喜びとしている人もいます。

虫が食んだ葉っぱ。一枚の葉っぱに開いた穴を見る人の視点の違いにより、穴の中に見える物も違うように、作品も色々な視点から捉えることができます。

今回、岐阜県内で活動している9名の制作者の作品とともに、制作風景を動画でも紹介したり、追体験できるワークショップコーナーも設けました。作品とともに、違った角度や多様な視点から感じていただき、これまで気づかなかった世界や自分自身に出会う場を目指しました。

また、今回様々なジャンルの方々に、作品の魅力についてコメントをいただきました。

企画展





骨骨 CLUB ミクストメディア | 50×40cm



まつり ミクストメディア | 52×73cm



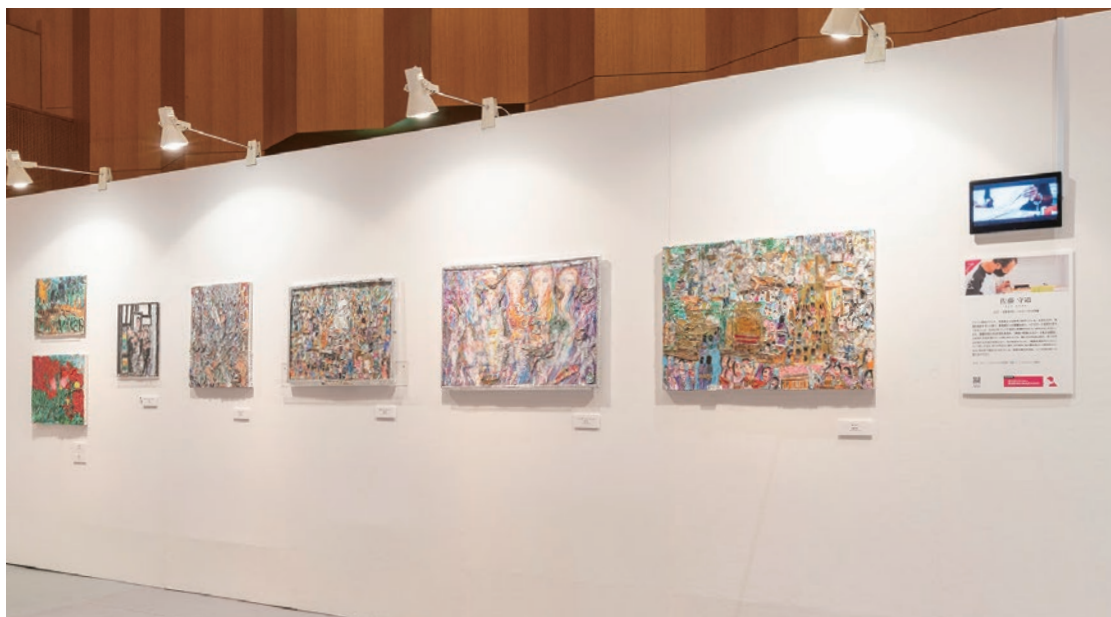
ようこそアンダーワールド ミクストメディア | 50.5×73cm



葬式 おくやみもうしあげます  
ミクストメディア | 38×32cm



合唱 ミクストメディア | 100×100cm



## 佐藤 守道 Satou Morimichi



1972- | 岐阜市在住  
シャイニーデイズ 所属

QRコード

制作風景の動画

アイドル雑誌やテレビ、写真集などを参考に制作している。女性の方が、表情を描きやすいと言う。美容師だった経験もあり、ヘアカラーの溶剤を混ぜて作ることが、作品の色づくりや画材に影響を与えているのかもしれない。また、葬儀を思わせる作品もあるが、「明るい作品にしたい」と本人は語る。

以前見た作品を借りたいと申し出たところ、既にその作品も含め、多くの作品が新たな作品の材料となり、切り刻まれていた。「画面を埋め尽くしたい」という思いのまま、多くの作品は、描き、切り刻み、貼り重ねるといった技法をとり、まさに色と形で埋め尽くされている。本展出展の作品も、いつか別の形へと変わるのだろう。

2021年 「オンリーワン わたしたちの芸術祭」出展(ハートフルスクエア/岐阜市)

### 魅力発見「ここが面白い！」



#### 岐阜北高等学校 美術部

遠目で見ると統一感があるのに、近くで見るといろんなものが詰め込まれていて、描かれているひとりひとりの表情も違っている。見れば見るほど新しい発見があつてずっと見ていられる。「合唱」は周囲の人は色鮮やかなのに、中心の女性と赤ちゃんだけ白くて神聖さを感じる。「骨骨クラブ」はガイコツが大きな足に踏まれているようで、よく見ているとぞっとしてくる。



#### ニワチコ [庭屋]

タイトルがおもしろくて、キラキラした少女漫画の登場人物のような人たちが押し寄せてくる、新聞のようにも見える作品。人間観察好き？



画用紙、色鉛筆、他 | 各27×38cm

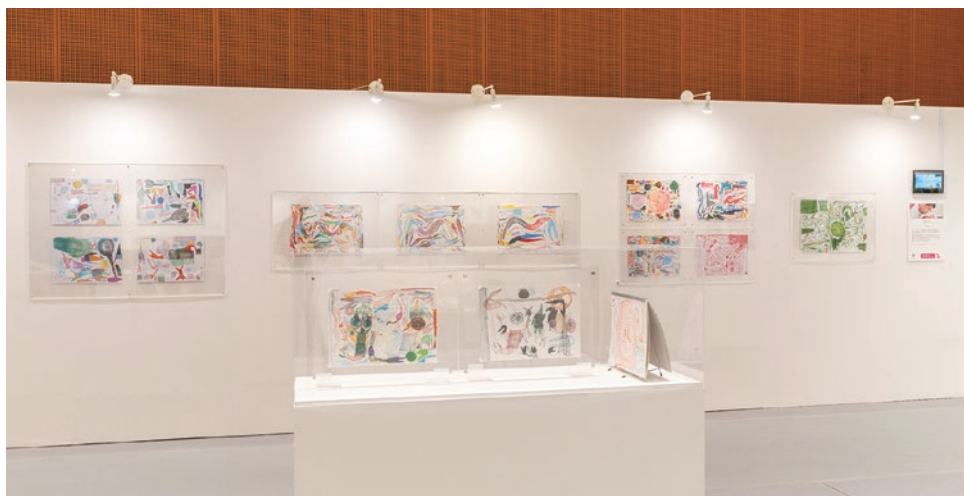


画用紙、サインペン | 各31×44cm

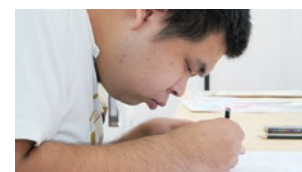




画用紙、サインペン | 00×00cm



## HとI H to I



ゆらりて 所属

QRコード

制作風景の動画

「たのしくて、たのしくて」。取材の際に、自分の作品を丁寧に説明する中で、何度もその言葉に出会った。今年できたアートをメインとする施設で、毎日描くことを存分に楽しんでいる。

作品の描き方も変化し続けて、オリジナルの技法も自然に編み出されている。最新の描き方は、鉛筆で強く描いた線を一度消して、その上に色鉛筆で色をのせていく。すると、消えた線が、再び白く浮き上がる。さらにペンなどで重ねて、様々な技法が混在した作品世界を作っていく。

2022年 「オンリーワン わたしたちの芸術祭」出展(ハートフルスクエア/岐阜市)

### 魅力発見「ここが面白い！」



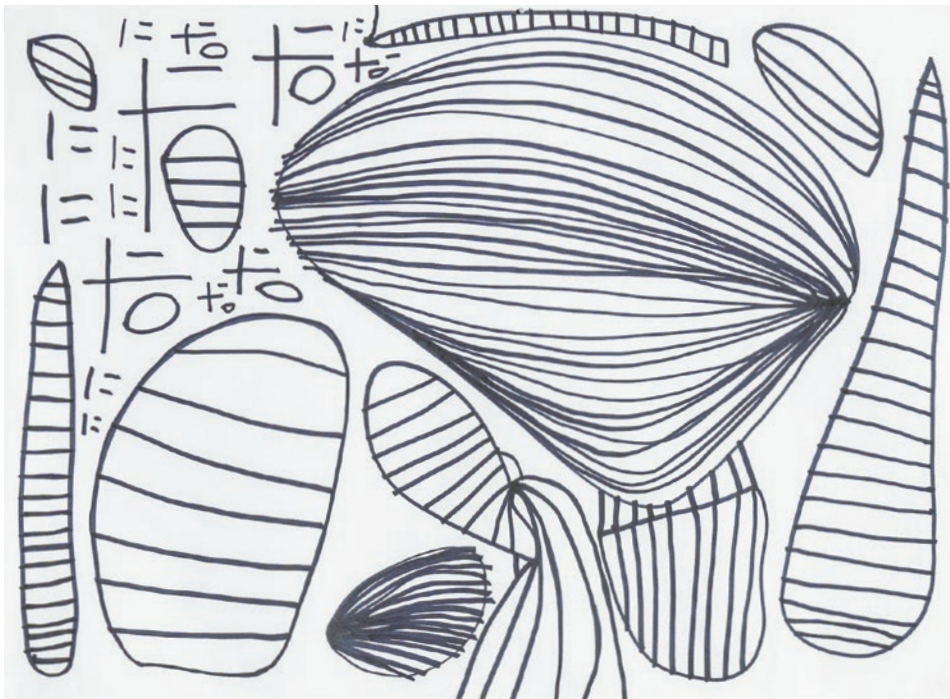
#### ひしだみわ [アーティスト]

作品たちがお話しみたいになっておもしろかったです。恐竜がいて、みんなで遊んで、隕石が落ちてきて色んな化石ができた。みたいな作品たちや、なめらかに動いている作品とかゆっくり動いている作品。100年時代の遊びを感じる作品など色んなお話がわいてくる作品たちでした。



#### 横幕大祐 [学芸員(考古学)]

無数に描かれた細長いカラフルなにより。片方が二股になっていて、太古の原生物のようだ。他には、それに似て非なる、牙の生えたヘビやワニ、クリオネやうさぎ、人間「のような」バリエーションが無数にある。によりよると、ほかの無数のバリエーションをじーっと見る。太古の原生物「によりよる」は、進化の過程で様々なカタチになる選択肢を持っていたに違いない。HとIさんの作品群は、選ばれなかった命の可能性を拾い上げているように感じる。作品群の中に、自分に当てはまる命のカタチを探してみるのも楽しいかもしれない。

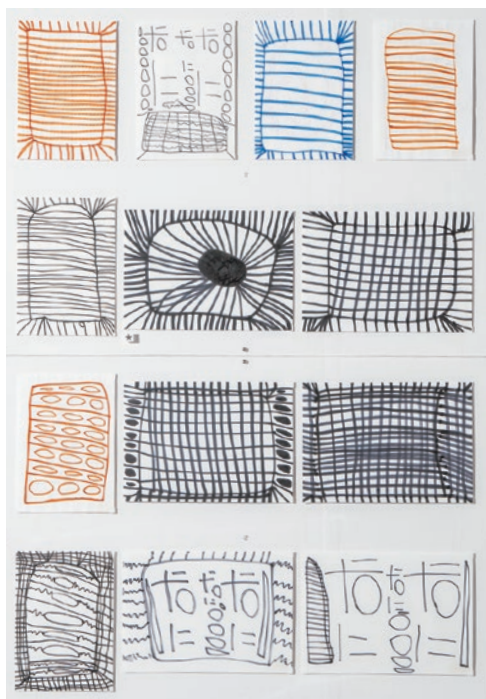


模造紙、マジックペン | 79×109cm

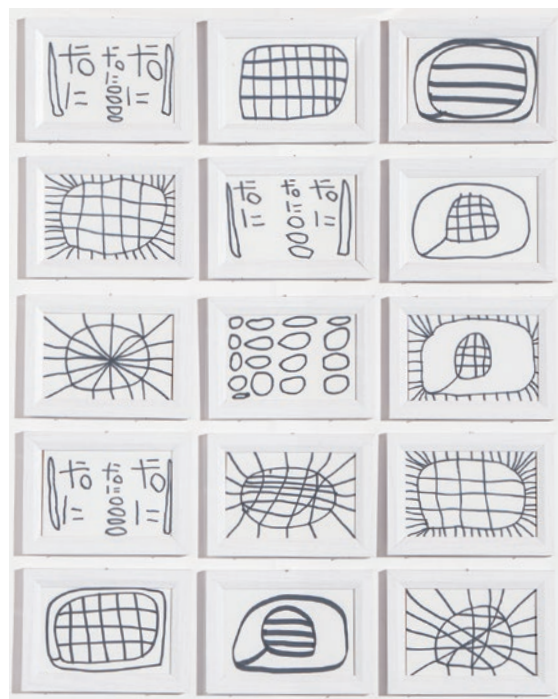


模造紙、ポスターカラーペン | 79×109cm





コピー用紙、マジックペン、ポスターカラーペン | 各30×21cm、各26×37cm



ポストカード、マジックペン | 10×14.8cm



## K → UNI Kuni



多治見市在住  
第一陶技学園 所属

QRコード

制作風景の動画

アート活動を行っている施設内に、自分のスペースがある。バケツの中にある段ボールをちぎったり、何かが気になって確認するという行為の後、支援員が用意した大きな紙に向かう。中々始まらないが、描き始めると大きさに臆せず、画面いっぱいペンが進む。一部にある文字のように見えるものは、自分の名前を書いたことに起因し、大きな丸い形の両サイドについているものが耳のようなものは、ダルマの顔を描いた名残りではないかと推測できるそうだ。また、創作活動を行うようになって、徐々に穏やかな時間が増えたそうで、支援員もアートの力を感じていると言う。

2021年 「アール・ブリュット作品展」出展、カレンダー掲載

### 魅力発見「ここが面白い！」



#### 岐阜北高等学校 美術部

どの作品も一見シンプルで、同じように見えるけど、線の流れや疎密によって立体感や質量も感じられるのがおもしろい。

たくさんの線は複雑な感情を表しているのかな？フリーハンドで描かれた多くの直線の微妙な湾曲で、平衡感覚が揺さぶられる感じがする。ずっと見ているとクラクラしてくる。

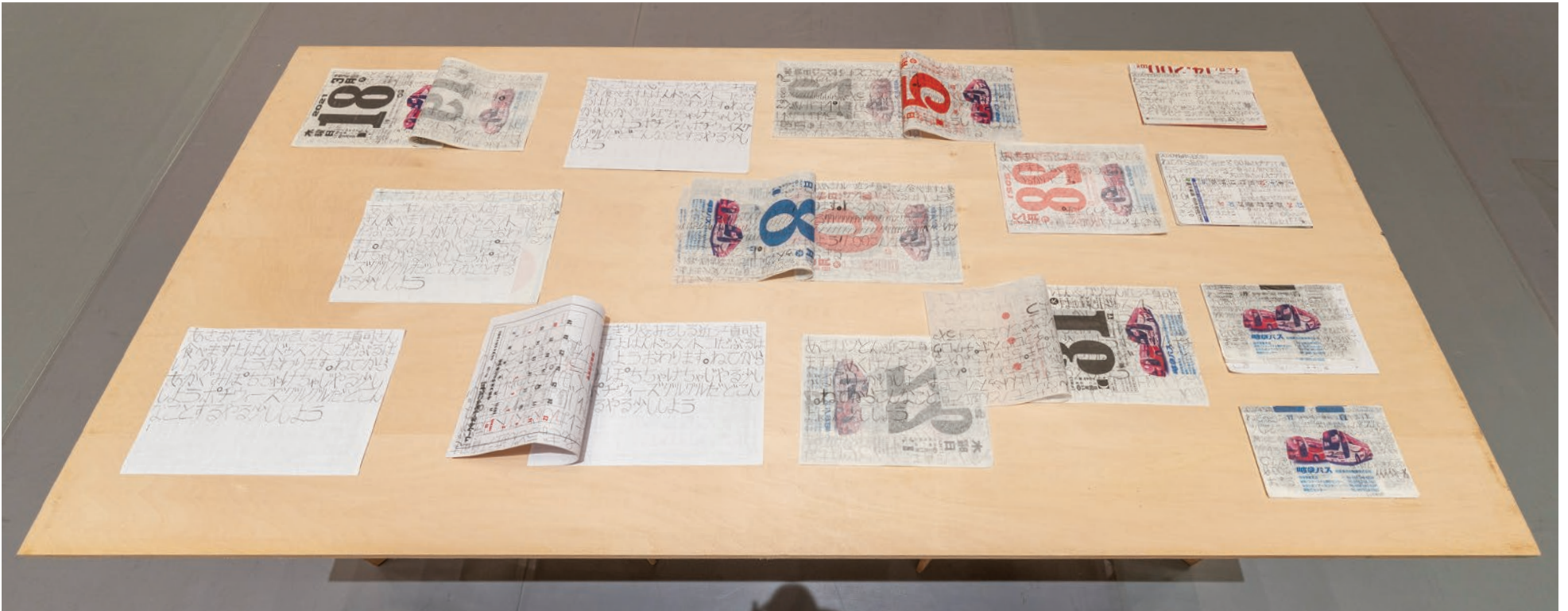


#### 水野有友 [研究者(人間発達学)]

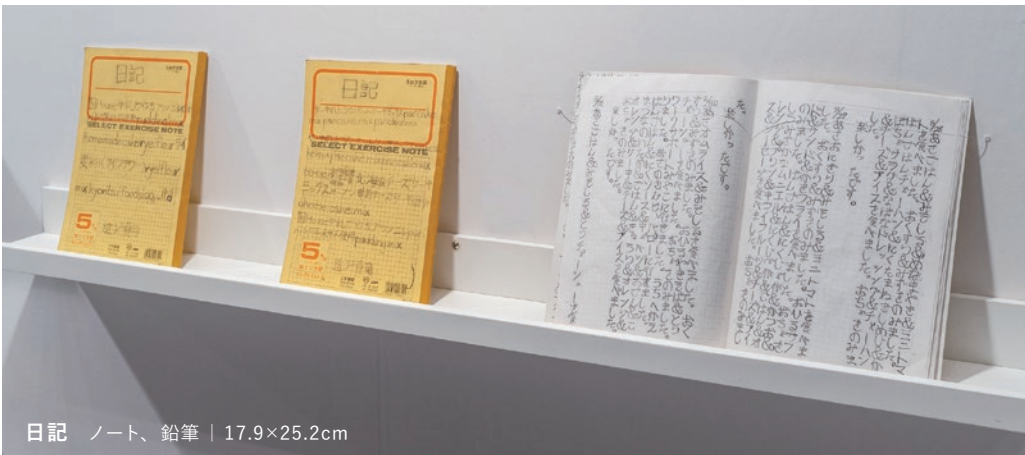
私、この人に会ったことがあるかも。出会ったことがあるような明るさを感じる作品でした。のびのびとした線が、紙の大きさなど関係なくどこまでも広がっていて、本当はもっともっと大きな作品なのではないかなども。

私たち人間は、まずは「知っているモノ・コト」を描き始めると考えられています。この作品も「何を描いたか」考える前に、この方が知っている世界はこんな世界なんだと穏やかな気持ちになりました。

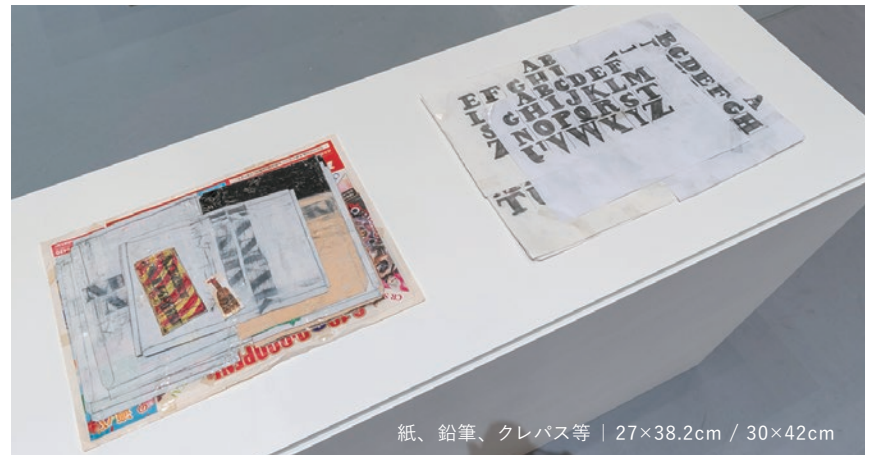
後からスタッフさんにお聞きしたら、お会いしたことの無い作家さんでした(笑)。この作品を通して、時空を超えてお会いしていたのかもしれない！



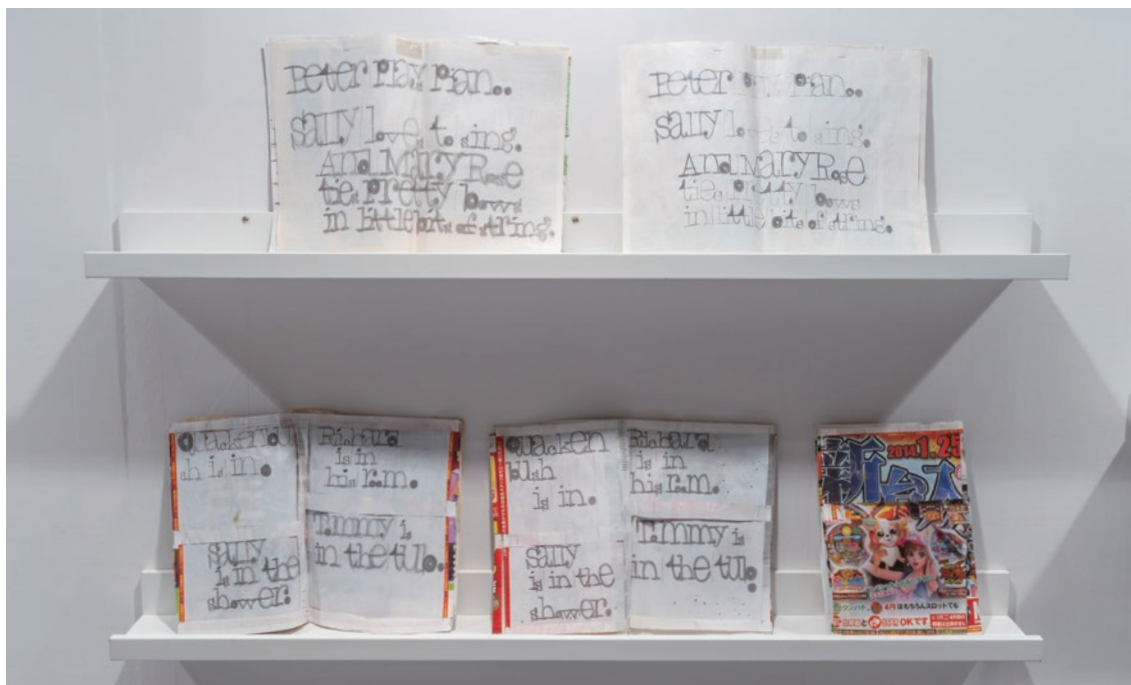
日めくりカレンダー等、鉛筆 | 19×25cm



日記 ノート、鉛筆 | 17.9×25.2cm



紙、鉛筆、クレパス等 | 27×38.2cm / 30×42cm



チラシ広告、鉛筆 | 28×19.5cm



## 近江 真司 Oumi Shinji



1999- | 岐阜市在住  
ワークサポートみやこ 所属

QRコード

制作風景の動画

通所してきた日には、箱折の作業や絵を描くことなど、自分で決めたことをする。自分の世界に閉じこもってしまうこともあるが、周りの人は温かく見守っている。

ケーキやクッキーを作ることが得意で、気が向くと自宅で作り、支援員などにプレゼントする。包み紙や入れ物も自作するが、食べ終わると捨ててしまうので、支援員は内緒で取っておくそうだ。ちなみに、展示されているクッキーは2年程前に作ったもの。日記にはこうありたいという希望が書かれている。自分自身の意思を表現しているのではないかと支援員らは推測している。

2023年 「生きるを彩る」展(カフェ&ギャラリー水の音/岐阜市)

### 魅力発見「ここが面白い！」



#### 滝本 真 [TAKIMOTO シェフパティシエ]

アルファベットの手帳は独創的でした。

私にとって、日記帳・日めくりに関しては、色彩や形状で視覚的に理解ができなかったのが文章から感じたコメントをいたします。

作家さんは、客観的に自身を見ているのか？または現実とバーチャルの世界を行き来しているのか…ずっと読み続けていたところ、私自身の幼少期の経験として「自分は大きな乗り物」とか、例えば水に入れば「大きな魚」とか擬人化の逆の様な楽しみ方をして日々の生活していた事を思い出

しました。

文章内にある同じ字が並ぶ部分は、自身が一人である時にふと大きな声で歌を歌ってみたいくなったり、急に恥ずかしくなるような過去の経験を思い出して大きな声を出してみたり、楽しかった経験を思い出してニヤケてみたりする行動とリンクしました。

人にとって一番大切である「食べる」という行動とその楽しさ、時間の流れは常に動いているというメッセージと共に自身の過去の経験を思い出させてくれる作品でした。



#### 水野有友 [研究者(人間発達学)]

綴ることは綴ること。

なんだか、作家さんの生活だけではなく、心のなかをそっと覗いてしまったようなそんな感じがありました。

まるでレコードダイエットのお手本のような記録ノートで

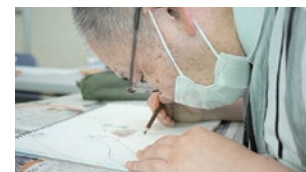
した。最後が必ず、「楽しかった」で終わる記録の法則は、勝手に決めていたノートの使い方の法則を越えていました。おそらく食いしん坊な作家さん。いつか一緒に、おいしいものを食べたいです。



スケッチブック、色鉛筆、絵の具、ペン | 各35.2×25.1cm



## MAKOTO Makoto



1960- | 下呂市在住  
益田やまゆり園 所属

QRコード

制作風景の動画

タイトルが作品上や裏に書かれているものがある。思わず、くすっと笑ってしまうものも多い。今回の展覧会に向けての取材中も、少しずつ打ち解けて、控えめな笑顔やピースサインを送って、愛嬌のあるMAKOTOさんの人柄を知ることができた。一時は描くことよりも、プラモデル制作に没頭していた時もあったようだが、また再び描き始めた。描く時間は決まっておらず、気が向いた時に取り組む。

自分の部屋にあるテレビやアルバムの昔の写真、身の回りにある新聞、散歩道。記憶の中に残ったものやユーモアが混ざりあって、独特の世界観を作っているのでしょう。

近眼のため、画面に顔を近づいて描き、鉛筆削り器が壊れる程削って、ぬり重ねている。

### 魅力発見「ここが面白い！」



**高橋純子 [雑貨屋 flamant 店主]**

今すぐ雑貨の世界にお招きしたい。見るものの想像力をいかようにも広げられる絵力と色づかいに、心奪われました。

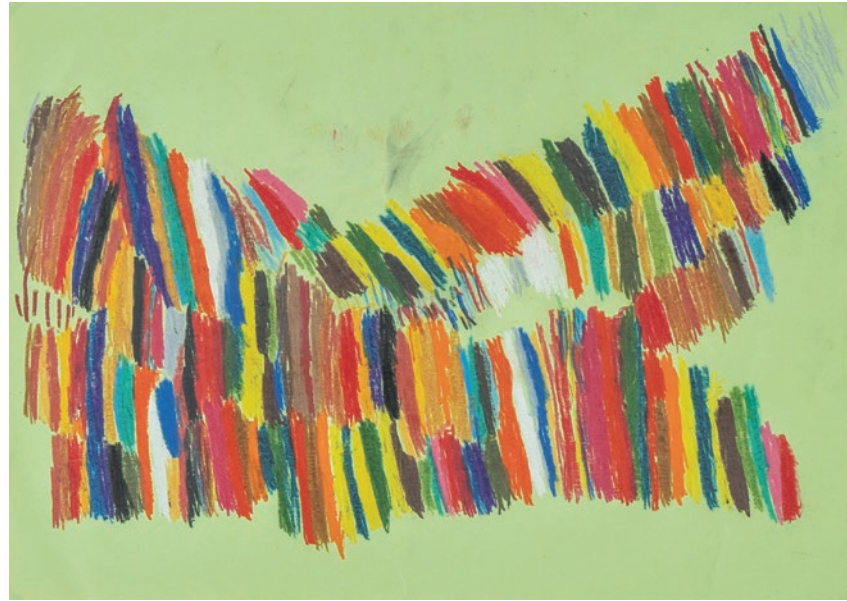


**RYUREX [音楽プロデューサー・アーティスト]**

ウキウキしたポー！タイトルのユーモアさが凄い。タイトルを見た後に作品を鑑賞するとまた一層楽しめました。タイトルを付けた意味を知りたくなり、作者に会いたくなる衝動が。今まで見た場所、モノ、ヒトが描かれているように感じました。今後様々な経験を重ねた MAKOTO さんの作品も楽しみです。



紙、色鉛筆 | 27×39cm



紙、色鉛筆 | 26×36cm



紙、色鉛筆 | 21×29.7cm



紙、色鉛筆 | 21×29.7cm

## 前田 清之 Maeda Kiyoyuki



1968- | 各務原市在住  
福祉の里あすなろ 所属

QRコード

制作風景の動画

施設での創作活動で週1日制作に励んでいる。支援員の思い付きから、巻き物状のファックス用紙を提供し、終わりのない色彩の旅が始まった。8メートル以上もある作品が、いつ終わるか分からないとのことであったが、この展覧会に向けてなのか、巻き物作品2本の内、1本が完成したとのこと。

さらに、新たな作品に取り組む際に、色鉛筆を変えるという行為がわかり、支援員は作品によって色鉛筆を使い分けていることに気付いたそうだ。ちなみに、使用する色鉛筆は、並び順に使っていると、選んで使っているときがあるそうだ。ピンク→紺→ピンクになっていることもあり、職員も選んでいる仕草を確認している。しかし、その並び替えは、整理されていない色鉛筆が気になる別の方が、毎回行っている。

R2年度 tomoniカフェ 窓の装飾(二次利用)



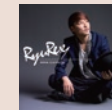
### 魅力発見「ここが面白い！」



#### 滝本 真 [TAKIMOTO シェフパティシエ]

障害のある方々の作品に共通することではあります、色彩感覚に驚かされました。まず一般的に健常者と呼ばれる方々にとって、8mの白紙を前にして物を描く色をのせる事がどれだけ難しいか?自身で実際に作品を観ながらA4用紙にボールペンで真似て描きましたが10cmほどで色々な意味でギブアップしました(笑) この作品の「どういところが、どのように素晴ら

しいか?」芸術的センスのない私には答えられませんが、「線と色彩がなにか素敵」であり、意味があるのか?意味がないのか?「意味がないのが意味」であるかの様に感じました。大きな建造物の壁であったり、我々が使うお菓子の箱であったり、もっと小さなマスキングテープの柄であったり、どのような物でも馴染むことができ、そんな作品の様な気がします。



#### RYUREX [音楽プロデューサー・アーティスト]

終わりなきイロイロの奏で。そんなタイトルを勝手に付けたくなるような作品でした。様々な色を活用して、並べ方や順番で微妙なトータルカラーイメージが変わる様を楽しめました。帯の様なロング作品は流れやゆらぎさがあり【人同士の繋がり】を感じました。カラフルな配色が個人的に大好きです。



リュック、ひも等 | 50×30×27cm



糸巻、ひも等 | 小14×9.5×9.5cm、大16.5×11×11cm



木製枠、ハンガー、ひも等 | 39×41×3cm



ほうき、ひも等 | 70×20×2cm



鉄枠、ハンガー、ひも等 | 160×50×50cm

## 篠田 慎 Shinoda Shin



1990- | 岐阜市在住  
アートフィールド 所属

QRコード

制作風景の動画

以前は誰も知らない内に、施設内の机や椅子の脚に糸が結ばれていたり、その椅子と棚を糸でつなげたりして、支援員も人知れず行われる行為を一緒に楽しんでいた。

今年できたアートをメインとする事業所に移り、以前の織りや糸のワークを継承しながらも、自分のやりたいことを自分のペースで取り組んでいる。

作品について説明を求めると、普段の人懐っこい笑顔とは違い、真剣な態度や力強いうなずきで返してくれた。安心できる環境で、自分のやりたいことができているという自信が表れている。

2021年 第15回「岐阜アートフォーラム」出展(上宮寺/岐阜市)

2023年 ART FIELD 所属作家セレクト展 The 1st

～それぞれの hohaba`歩幅、～(GALLERY teku+teku / 岐阜市)

### 魅力発見「ここが面白い！」



佐藤悠理 [モデル・株式会社IKUTO 社長]

虫たちがみんな妖精に進化して、洋服や家、糸などを色々作っているメルヘンな世界観が伝わってくる作品でした。色々な糸の使い方の工夫が好きです。



ニワチコ [庭屋]

カラスの巣のような、何か生き物のようなかっこいい作品。庭の見える大きな窓際がよく似合う。リュックサック学校で流行らないかな。



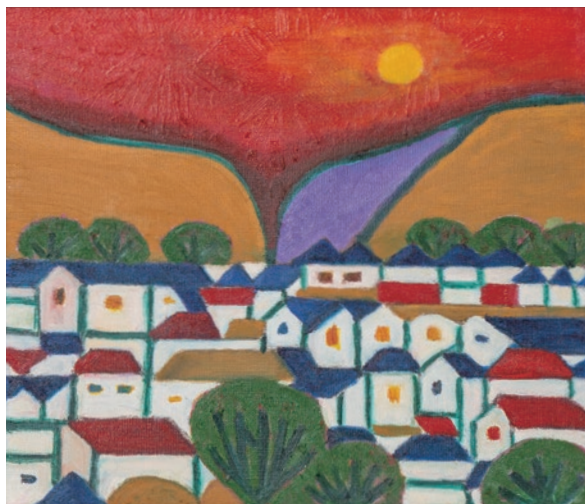
恋人 キャンバス、油彩 | F3



彼女 キャンバス、油彩 | F10



愛人 キャンバス、油彩 | F20



陽の当たる家々 キャンバス、油彩 | F10



神戸北野異人館 キャンバス、油彩 | F20



フラワー キャンバス、油彩 | SM(サムホールの略)

## 篠田 友司 Shinoda Yuuji



1964- | 岐阜市在住

QRコード

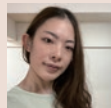
制作風景の動画

自身の恋人や入院した窓からの眺め、訪れた風景など、自分の経験を通して感じたことや描きたいものを描いている。風景は自分で撮った写真も参考にしている。油絵の技法は高校美術部での3年間と、長縄等士先生に2年間習ったとのこと。確かな技術を元に、自分のスタイルや色彩にこだわりをもって取り組んでいる。県や市の公募展にも積極的に出展し、入選を重ねていることが自信になっている様子。

一度描いた作品も気に入らなければ、上から塗りつぶし、ゼロから始める。作品制作に集中し、取り組む真剣な眼差しがあった。

- 2010年 「ふれあいアートステーションぎふ」出展、新人賞
- 2013年 「ふれあいアートステーションぎふ」出展、努力賞
- 2018年 「ふれあいアートステーションぎふ」出展、大賞
- 2022年 「ふれあいアートステーションぎふ」出展、優秀賞
- 2022年 「第52回各務原市美術展」入選
- 2023年 「第75回岐阜市美術展」入選

### 魅力発見「ここが面白い！」



佐藤悠理 [モデル・株式会社IKUTO 社長]

日本の神戸からはじまって、どこかの国や場所を旅して出会ったかたと、一番印象に残った風景を思い出して描いたのかなと感じました。パッと見ると黒色に見えるけれど、緑色をさりげなく使っているところが好きです。



横幕大祐 [学芸員(考古学)]

一見シンプルに見えるけど、細部までいねいに筆を重ねていて驚いた。あるものをあるまじに。誠実に・忠実に突き詰めようとキャンバスに傾注する作者の姿が目には浮かびそう。窓枠や柵、壁などの輪郭がカッチリしているのと、身体や衣服、影や空気が美しいグラデーションで茫としているのは、正反対のようだけど、誠実・忠実という点ではイコールなのかもしれない。作者の目に、自分はどのように見えているのだろうか。一度モデルになってみたい気がするけど、自分の知らない部分まで描かれそうで勇気が出ない。



画用紙、クレパス、ペン、ボールペン等 | 38×54cm



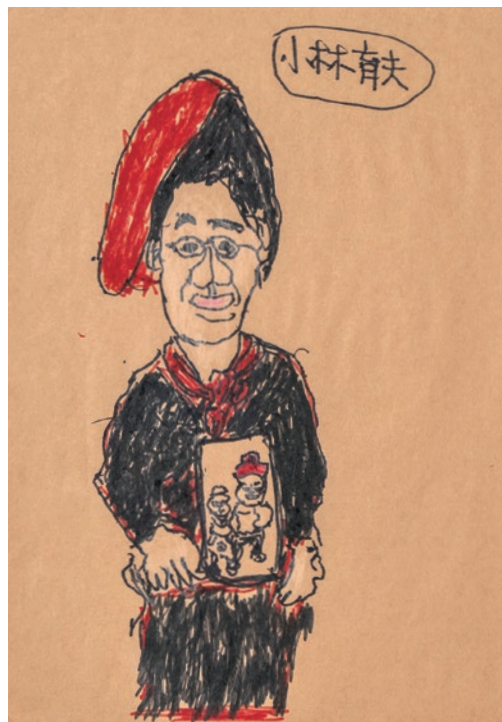
画用紙、クレパス、ペン、ボールペン等 | 38×27cm



画用紙、クレパス、ペン、ボールペン等 | 38×54cm



画用紙、クレパス、ペン、ボールペン等 | 54×38cm



画用紙、クレパス、ペン、ボールペン等 | 38×27cm

## 小林 育夫 Kobayashi Ikuo



1961- | 高山市在住  
高山山ゆり園 所属

QRコード

制作風景の動画

お気に入りの帽子やスカーフを身にまとい、おしゃれな小林さん。テレビや雑誌、毎朝配達される新聞などから、印象に残った人物や好きな場面などを毎日描く。描き続けた結果、まるで日記のように、膨大な量の記録となっている。

テレビや映画の世界と現実世界を切り離さず、日常に溶け込んでいる。特に人物画は、強さをイメージするプロレスラーや相撲取りなどのアスリートや、ヒーローが登場する映画の主人公を多く描いている。

描くという行為自体も、通常の“作品を作る”という意識とは大きく異なっているように感じられる。

2022年 「手に手をつなごう作品展」傾奇者賞(高山市民文化会館/高山市)

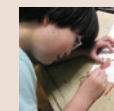


### 魅力発見「ここが面白い！」



#### 高橋純子 [雑貨屋 flamant 店主]

風刺が刺さります。  
そこに向けられた情熱を知りたいです。  
着目された人が妙にうらやましい。



#### ひしだみわ [アーティスト]

小林さんの世界にスキップして入れそうな作品たちです。へによへによに疲れ果てたプロレスラーがいたり、子どもを守ってるようなサンタクロースも面白かったです。自販機に緊張してるような作品とかめっちゃ面白くて、どの作品も絵から飛び出してきそうでした！



### 001 魅力発見 「ここが面白い！」

様々なジャンルの方々の他に、来場者にも作品の感想や独自の魅力ポイントを書くコーナーを設け、色々な視点を共有しました。



QRコード



### 002 追体験 ワークショップ

出展者・近江真司さんのノートを参考に、最後に「楽しかったです。」で終わる文章を書いたり、出展者・HとIさんの技法を真似した絵を描く追体験ワークショップスペースを設けました。



### 003 黙々鑑賞会

11/3(金・祝) 16:00 ~ 17:00  
[ナビゲーター]  
大槻悦子(HIDAフェス実行委員会)  
武藤弘明(TASCぎふ)  
[参加者]  
20名  
[協力]  
黙々広場実行委員会  
高山聴覚障害者協会

言葉を発せず、身振りや筆談、手話などを用いて、参加者同士で作品について語り合う鑑賞会を行いました。



### 004 視覚障がい者の 〇〇さんとめぐる鑑賞会

11/5(日)  
①13:30 ~ 14:00  
[ゲスト] 河合千尋  
[参加者] 5名  
②14:30 ~ 15:00  
[ゲスト] 河出充典、堤 鉄博(岐阜盲学校教員)  
[参加者] 4名  
[ナビゲーター] 安田香実(tomoniアートサポーター)

視覚障がい者に参加していただき、数名で作品について語り合う鑑賞会。参加者全員の背景や興味、身体、感覚の違いを前提としながら、匂いや音などもキーワードにして、作品の世界を広げたり、想像したり、あるいは創造して、作品を楽しむ体験をしました。





## 005 謎解きゲーム

虫メガネ型の鑑賞グッズを作成し、出展作品の一部を印刷した面と実際の作品を合わせていき、謎を解く鑑賞ゲームを行いました。



## 006 ガイドツアー

11/7(火) 10:00 ~ 10:30

[参加者]  
1団体

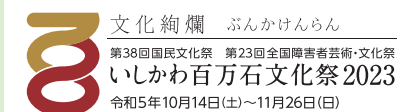
ぎふ清流文化プラザ全体で開催している各企画をめぐるツアーを行いました。



## 007 いしかわ百万石文化祭2023

[出展者]  
山下鼓太郎(フォルムのシティ所属)  
宮下哲夫(はぎの郷所属)  
山下慎次(石川県立錦城学園所属)  
北村伊佐雄  
高野圭悟(それいけ仲間たちの家所属)

本年度、石川県で開催されている全国障害者芸術・文化祭に関連して、石川県で活動されている5名の作品を展示しました。



008

## まじわるラジオ

11/5(日)-6(月)

[司会] 透 千保

出展者に関わる支援者やコメントを送った方々と、「世界をどう見るか」について、出展者や作品を通して、違った目線から語り合いました。



11/5(日)



### 『こたえのない学校』

[関高等学校 放送部]

岡田有紗 + 山田藍生



📺 音声動画



### 『こたえのない学校』

[飛騨高山高等学校 太鼓部] ※オンライン出演

長瀬心海 + 丸山友希



📺 音声動画



### 『世界をどう見るか／篠田 慎さんを通して』

佐藤悠理 [モデル・合同会社IKUTO代表]

+

森 真紀 [アートフィールドスタッフ]



📺 音声動画

11/6(月)



### 『世界をどう見るか／K→UNIさんを通して』

水野友有 [中部学院大学准教授]

+

石田智明 [第一陶技学園スタッフ]



📺 音声動画



### 『世界をどう見るか／前田清之さんを通して』

滝本 真 [TAKIMOTOシェフパティシエ]

+

絹谷 梢 [各務原市福祉の里あすなろスタッフ]



📺 音声動画



高橋純子 [雑貨屋 flamant店主]



📺 音声動画

009

## 15時からのTASC-1ステージ

11/3(金・祝)-7(火) 15:00~



何でもありのパフォーマンスを披露する場。公募により集まった6組が、ダンスや演奏などを披露しました。

11/3(金・祝)



ごちゃまぜアートの会

11/4(土)



Pinkiry

11/5(日)



河合千尋



夢工房 JIN

11/6(月)



Sul.Sul

11/7(火)



クラフトマンいっき



## 010 アートマルシェ

11/3(金・祝)-7(火) 10:00 ~ 15:00

[出店者]

あしたの会家庭学校

ビー・カンパニー

夢工房JIN

peu a peu

おもちゃ工房 SHINODA

凸凹でこぼこ Creative Group

製麺・パン工房 さくらゆき

パン工房&カフェ エスポワール

ひなたぼっこ園

LSエンジェリック

Jerry's Popcorn 岐阜フレンド店

県内福祉施設や個人作家のアー  
タなグッズや美味しいものを販売しま  
した。



## 011 ストリートピアノ

11/4(土) 10:00~13:00

2Fホール前に、誰もが自由  
に演奏できるピアノを設置しま  
した。



## 012 画材バンク譲渡会

11/4(土) 10:00~13:00

県内外から寄付された画材を  
必要な方に譲渡しました。ブ  
ースをtomoniアートサポーター  
が担当しました。



## 013 tomoniあたらしいものづくり [Make with 2023]

ボンボンショコラの転写シートに作品を利用し、新たな「ものづくり」  
のコラボレーション・コミットメントを促す取組みを行うモデル事業。



## 014 株式会社十六フィナンシャルグループ [つなぐアート展] [出展者] 曾良貞義、田口翔大、水上真歩

県内の十六銀行各支店を一年間巡回する展覧会の紹介。来場  
者が作家に感想を届ける仕組みも設けられました。



## 015 OKB 大垣共立銀行 [tomoiアートプロジェクト]

様々なジャンルの企業が作品を利用。現金封筒や消毒液など、  
商品化した取組みを紹介しました。



## 016 「虫が、食む。」公募作品展

「虫が、食む。」をテーマにした公募のハガキサイズ作品展。476点の応募があり、展示作業はtomoniアートサポーターが担当しました。来場者による「いいね」シール貼りも。



## 017 tomoniアートサポータープレゼンツ企画展vol.4 わたしのファッションショーピックアップ展

【会期】2023/10/22(日)-11/7(火) 9:00～17:00

tomoniアートサポーターが企画から携わる展覧会の第4弾。着るもの、身につけるものを自分の得意な方法で表現した公募作品233点の中から、tomoniアートサポーターが特に魅かれた作品をピックアップし、その作品の魅力や面白さを紹介する展覧会です。

## 018 わたしのファッションショー

11/4(土) 13:30～14:30

【協力】

監修／佐藤悠理(モデル、合同会社IKUTO代表)

ヘアメイク／岐阜美容専門学校

演奏／早兼明子(ピアノ)、大矢夏希(ベース)、

藤原瞳(パーカッション)

手話通訳／岐阜県聴覚障害者協会

スチール写真／伊藤健次郎

動画撮影・編集／バナナポート・スタヂオ

企画・運営／tomoniアートサポーター〔臼井かつら、段香菜子(司会)、寺島真希(司会)、松原一博、柳原史佳、山口真奈美、山根麻子〕

一般公募により集まった12組17名のいろんなみんながプロのモデルによるウォーキング指導を受けて、モデル(出演者)がランウェイを歩きました。ヘアメイクを専門学校の学生が担当し、tomoniアートサポーターが司会や誘導を行いました。

### COMMENT



tomoniアートサポーター  
段 香菜子

私は、絵を描く茂さんと関わる中で、アートの世界に興味を持つようになりました。

今回、アートサポーターとして参加した初めての企画が“わたしのファッションショー”でした。茂さんを紹介し、モデルとして参加されることになりました。

茂さんをはじめ、モデルの皆さんがキラキラとランウェイを歩く姿を見て、とても幸せな気持ちになりました。会場全体が笑顔で盛り上がっていたあの光景は今でも忘れられません。

わたしのファッションショー  
(写真未定)

019

## 感じるワークショップ「クモの巣をつくろう！」

〔庭園企画・設営〕春日井ワタル(庭創房)、ニワチコ、岩田造園、タケフミ、鶴田優美

〔設営等〕アートサポーター〔白井かつら、岡本隆生、金丸寛、國光恭子、白木敏雄、柳原史佳、ワンステップ、安田香実〕

2F庭園を活用し、誰もがいつでも参加できるワークショップ。毛糸や割り布などをいろんな方から寄付いただき、来場者は好きな毛糸などを庭園各所に結び付けました。

庭師により穴の開いたカラフルなシートを庭園の各所に設置し、空や風などを感じる仕掛けを施しました。シートの穴開けは、中部学院大学の学生や福祉の里(各務原市)でのワークショップ参加者が行い、いろんなみんなの参加で作られました。



庭師  
春日井ワタル

庭師の仲間と共に、「虫が、食む。」をテーマにアイデアを出し合い、屋外の装飾を担当しました。ぼくらの仕事は植物や土、石など自然相手、木に登ったり土を掘ったり、虫の視点に近いのかもしれない。いつもとは違う距離感や視点、感触で、すこしでもいつもと違う何かを感じてもらえたらと思い、制作しました。

COMMENT





いろいろなイベント

**020**  
 感じるワークショップ「虫を探そう！」

[オブジェ制作] クラフトマンいっき、夢工房JIN

今回の副題「虫が、食む。」になぞらえて、庭園に虫のオブジェを設置。来場者は、そのオブジェや実物の虫を探し、虫メガネ型の鑑賞ツールから覗く仕掛けも施しました。オブジェは、焼き物や段ボール製の約40匹とプラ板製の100匹を福祉施設に制作依頼しました。

# いろんな みんなが 協力したよ!

本展覧会は、アートサポーターが展示作業や監視員、受付、鑑賞会のナビゲーターなどを担当しました。



## COMMENT



tomoniアートサポーター  
柳原史佳

今まで受付しか担当した事がない中、今年は初めて監視員にチャレンジさせて頂きました。不安もありましたが、作品に囲まれた空間が贅沢に感じる程、素晴らしい数日間となりました。

作者やご家族等と話す機会があったり、謎解きゲームや追体験コーナー等を通じ、来場者とコミュニケーションが図れたのも嬉しい事でした。

ご来場頂いた方も、作品を堪能されていたと思いますし、この展覧会を共有した者同士、また次回もお目にかかれる気がします。

第23回全国障害者芸術・文化祭サテライト開催事業 「清流の国ぎふ」文化祭2024プレイベント  
**いろいろなみんなの展覧会 虫が、食む。**

会期 2023年11月3日[金・祝] - 7日[火]  
 時間 10:00-17:00  
 会場 ぎふ清流文化プラザ(2F 長良川ホール など)  
 入場料 無料  
 主催 岐阜県



後援 (公財)岐阜県教育文化財団・岐阜県障がい者芸術文化支援センター[TASCぎふ]  
 (一財)岐阜県身体障害者福祉協会  
 助成 (公財)十六地域振興財団

協力 [作品貸出等]  
 アートフィールド  
 シャイニーデイズ  
 第一陶技学園  
 高山山ゆり園  
 福祉の里あすなろ  
 益田山ゆり園  
 ワークサポートみやこ  
 ゆらりて  
 いしかわ百万石文化祭2023 文化祭推進室  
 文化・芸術活動支援センター かける

[作品展示等]  
 小倉央仁  
 土屋侑大  
 豊富春菜  
 南谷富貴  
 松村喜弘

[会場設営等]  
 株式会社デザイングラフィス

[まじわるラジオ]  
 株式会社岐阜放送

[動画]  
 株式会社東海制作



制作・発行 (公財)岐阜県教育文化財団・岐阜県障がい者芸術文化支援センター [TASCぎふ]  
 発行責任者 理事長 高木敏彦  
 写真 (公財)岐阜県教育文化財団・岐阜県障がい者芸術文化支援センター [TASCぎふ]  
 スタジオベガン  
 株式会社フジナ  
 デザイン 岩田和也(プラグラフ)

お問い合わせ 岐阜県障がい者芸術文化支援センター [TASCぎふ]  
 〒502-0841 岐阜県岐阜市学園町3-42 ぎふ清流文化プラザ1F  
 (公財)岐阜県教育文化財団内  
 TEL 058-233-5377 | FAX 058-233-5811 | MAIL tasc-gifu@g-kyoubun.or.jp



TASCぎふ、ホームページ  
<https://www.tascgifu.com/>



TASCぎふ、Instagram



TASCぎふ、YouTube



# いろいろなみんなの展覧会

虫が、食む。

